区報ぶんきょう　オリンピック・パラリンピック こども新聞　平成31年1月23日

嘉納治五郎師範とオリンピック

真田 久（さなだひさし）さんに嘉納治五郎について聞いてみた

嘉納治五郎さんとは？

10月28日（日）、嘉納治五郎師範生誕祭のイベントの取材を行いました。講演（こうえん）された真田さんにとって嘉納さんのことをどう思っているか、質問しました。すると、真田さんは嘉納さんは東京高師校長や、宏文学院長となっているが、生徒や留学生を教育するというのは、教育者としてはすごい、人を教えるとしてはすごいと思った、と言っていました。（小5／C・K記者）

同時開催（かいさい）された嘉納治五郎師範生誕祭のチラシ
資料提供：公益財団法人　講道館

中止のオリンピック

1940年日本でかいさいされるはずのオリンピックが中国との戦争がひどくなり、中止になりました。第2候補（こうほ）だったヘルシンキ（フィンランド）の周りでも戦争がはげしかったので、1940年のオリンピックが中止になりました。

2020年のオリンピックは平和に始まり、終わってほしいです。「オリンピックは政治のえいきょうを受けるべきではない」と嘉納先生がいったことが印象に残りました。（小5／R・M記者）

54年のマラソン

金栗四三さん。その人は元々嘉納治五郎さんが学長だった学校の生徒でした。そして日本初のオリンピックとなる1912年ストックホルムオリンピックに参加した一人です。他には団長の嘉納さん、東京大学（文京区）出身の三島弥彦さんなど…嘉納さんは文京区の講道館、三島さんは文京区の東京大学、金栗さんは高師校卒業（高師校は文京区にあった）と全員文京区に関係があります。

金栗さんの種目「マラソン」では、たくさんの人が棄権（きけん）する中、金栗さんも途中（とちゅう）で中断（※）しました。そして54年後、1967年3月21日。金栗さんは走りました。「日本の金栗、ただいまゴールイン。タイム54年8ケ月6日5時間32分20秒3。これをもって第5回ストックホルムオリンピック大会の全日程を終了します」

そして金栗さんは言います。「わたしはこのマラソンの間に2人の孫を作りました」。来年は大河ドラマで金栗さんについてやります。ぜひ見てください。（小5／S・K記者）

※日射病（にっしゃびょう）で失神（しっしん）した

尾縣 貢（おがたみつぎ）さんにマラソンのポイントについてインタビュー

心技体の関係

マラソンについて講演された尾縣（おがた）さんは、マラソンだけでなく、スポーツや学習の中でも「心技体の関係」というものがあると言っていました。心は「精神」・技は「技術」・体は「体力」という意味で成り立っています。心はまる、技・体はさんかくと表した場合、もし心が緊張していたりすると、心はコロコロと変わってしまい、すると技・体のバランスがくずれてしまい、そのせいで戦うことができなくなってしまう、と言っていました。だから、スポーツというものはおもしろい、と話していました。（小5／C・K記者）

尾縣 貢（おがたみつぎ）さんQ&A

Q. 東京マラソンとのコースの違いはなんですか？

A. 東京マラソンは、下り坂を走り、そのまま、平たんな所を走るけれど、オリンピックは、下り坂を走り、また最後に上り坂を走るという所です。

Q. どのような所に気をつけて、コースを決めますか？

A. 東京での名所やみんなに見てもらいたい所などをコースに決め、また交通にめいわくがかからないようにして、ちょうどよい環境がある所を、コースに選びます。

このしつもんで、文京区はとてもポイントとなる所なので、ぜひみてみたいです。（小5／R・M記者）

生誕祭（せいたんさい）シンポジウムの様子

2人の元選手と1人の現役選手のお話

ぼくは、谷本さんが言っていた、一本じゅう道という言葉が一番いんしょうに残りました。負け続けている時に「一本じゅう道にこだわっているから勝てないんだ」という周囲の言葉に心がおれたと言っていました。けれど谷本さんは一本じゅう道をつらぬき、金メダルをとりました。これは本当にすばらしい事だと思いました。

ぼくなら、そんなひどい言葉を耳にしたら、周囲の人からそんな事をいわれてしまったら、じゅう道をやめる選たくをしてしまうかもしれないからです。やめないで自分のやり方をつらぬくという強くて熱いじゅう道への想いを聞いて、ぼくもしょう来自分の気持ちを信じてテニスをがんばっていきたいと思いました。

また上野さんのいじめの話もショックでしたが、じゅう道があって心が強くなれたと聞き、そして石井選手の見えにくい中でもがんばれるじゅう道があるのは、信じる物があるという事は大切だととても強く思いました。（小5／K・S記者）

東京オリンピック・パラリンピックのマスコットを抱いた谷本歩実（たにもとあゆみ）さん（左）と上野順恵（うえのよしえ）さん（右）。右から二人めは石井亜弧（いしいあゆみ）選手

嘉納治五郎生誕祭講演のあと、谷本さん、上野さん、石井亜弧（いしいあゆみ）選手にお話をうかがいました。

Q. メダルの重さは何グラムですか？

A. アテネオリンピック ―― 130グラム
北京オリンピック ―― 200グラム
ロンドンオリンピック ―― 400グラム
リオオリンピック ―― 500グラム
東京オリンピック ―― 500グラム

と、谷本さんが教えてくれました。メダルの重さは同じだと思っていたけど、違っていてびっくりしました。

Q. 練習時間はどのくらいですか？

A. 石井選手は2時間30分～3時間、全日本の選手を教えている上野さんによると、選手はトレーニングを1時間、練習を3時間30分、合計4時間30分くらいするそうです。

私はこれから、谷本さん、上野さん、石井選手が言っていた、感謝を忘れず、負けた時は悔しさをエネルギーにして、前に進み続けて行きたいです。（小5／M・O記者）